

山響アマデウスコア特別演奏会



ドイツ・ バロック合唱音楽の 源流を訪ねて

～レクチャーコンサート～



解説・指揮：佐々木正利
岩手大学名誉教授
(山響アマデウスコア音楽監督)

指揮：渡辺修身
山形大学教授
(山響アマデウスコア指揮者)

2025/9/23

火・祝

開演 15:00

(開場 14:30)

山形テルサ 3F アプローズ

Program

- J.S. バッハ Kantate BWV71 《教会カンタータ 71 番》
“Gott ist mein König” 《神は私の王なり》
- 木下牧子合唱作品集より
『おんがく』『星の話し』『春に』『よかったなあ』
- H. シュッツ “Musikalische Exequien” 《音楽による葬送》
第一部 SWV279 ドイツ語埋葬ミサの形式によるコンツェルト
“Herr Gott Vater im Himmel, erbarm dich über uns”
《天におられる主、神、御父よ、われらをあわれんでください》
第二部 SWV280 二重合唱モテット
“Herr, wenn ich nur dich habe” 《主よ、あなたさえこの世にあれば》
第三部 SWV281 シメオンの讃歌
“Herr, num lässtest du deinen Diener”
《主よ、今こそあなたはこの私を安らかに去らせたもう》

オルガン・ピアノ 菅原美穂
ピアノ 井上愛理
合唱・独唱 山響アマデウスコア

TICKET (全席自由)

一般 2000 円

学生 1000 円

※未就学児の入場はご遠慮ください

チケット取扱い 富岡本店、八文字屋 Pool、山形テルサ
お問い合わせ y.amadeuschor@gmail.com / 090-5234-1724 (遠藤)
主催/山響アマデウスコア 後援/公益社団法人山形交響楽協会

山響アマデウスコア プロフィール



東京さくらんぼコンサートにて (2024.6.20 東京オペラシティ・コンサートホール)

音楽監督に佐々木正利岩手大学名誉教授、指揮者に渡辺修身山形大学教授を迎え、山形交響楽団附属の合唱団として2008年に結成。これまで、同交響楽団との共演により、モーツァルトの「大ミサ」「レクイエム」などのミサ曲、「フィガロの結婚」「魔笛」などオペラのハイライトをはじめとして、ベートーヴェン「第九」、マーラー「復活」、ワーグナー歌劇「さまよえるオランダ人」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」、ラター「マニフィカト」、ブルックナー「ミサ曲第2番・第3番」、ハイドン「天地創造」、ヘンデル「メサイア」、プッチーニ歌劇「ラ・ボエーム」「トスカ」、ヴェルディ歌劇「椿姫」、メンデルスゾーン「夏の夜の夢」など、バロックから現代に至るまで数々の合唱を伴う名曲・大曲を演奏し、県内外から高い評価を得ている。

2015年から山響との共演に留まらない運営形態に移行し、岡山フィルハーモニーとの共演によるブラームス「ドイツ・レクイエム」、仙台フィルハーモニーとの共演によるオルフ「カルミナ・ブラーナ」など演奏活動の幅を広げている。2017年合唱団創立10周年、2023年創立15周年を記念して単独の特別演奏会を開催した。2024年6月東京・大阪での山響/さくらんぼコンサートに初出演し、モーツァルトの「戴冠式ミサ」を演奏して好評を博した。

演奏曲目について

■ J.S. バッハ (1685～1750) は、生涯200曲を超えるカンタータを作曲しましたが、今回演奏する教会カンタータ71番「神はわが王なり」は、バッハ20代前半における初期のカンタータ作品とされています。若きバッハは、人間の罪や死、救いや永遠といったテーマにすでに正面から取り組んでおり、青年らしい感受性に溢れたみずみずしい作品となっています。

■ 木下牧子 (1956～) は、オペラや管弦楽、吹奏楽、ピアノ曲、声楽曲と幅広い作品を手がける現在活躍中の作曲家です。特に声楽作品は年代を問わず人気が高く、合唱や歌曲は全国的に数多く演奏されています。今回は、合唱ファンにとりわけ親しまれているア・カペラ曲2曲、ピアノ伴奏曲2曲を演奏します。

■ H. シュッツ (1585～1672) は、バッハのちょうど100年前に生まれた「ドイツ音楽の父」と言われる作曲家です。今回演奏する ムジカリッシェ・エクゼクヴィエン「音楽による葬送」は、ドイツ語によるレクイエム(死者のためのミサ曲)の先駆けとも言われ、シュッツの作品の中でも、精神性の深さに比類がなく、聴く者の心を捉えて離さない傑作とされています。